



EXAMINATION | 令和8年度新潟県公立高等学校入学者選抜試験が終了！



3月4日・5日の2日間に渡り、新潟県公立高等学校の一般選抜試験が実施されました。志願変更後における志願倍率は、全体（全日制・定時制）で0.97倍、全日制だけでは0.99倍といずれも1倍を下回る結果となりました。倍率が1倍を下回るのは、全日制・定時制ともに新潟県では初めてのことで、これには少子化による影響のほか、2026年度から「高等学校等就学支援金制度」（いわゆる高校無償化）が拡充されることにより、私立高校への入学ハードルが下がったことも1つの要因となったものと考えられます。

1倍を上回った学校としては、新潟高校（理数/普通）、新潟南（普通/理数コース）、新潟江南（普通）、新潟向陽（普通）、市立万代（普通）などがある一方、新潟中央（普通/学究コース）、新潟西（普通）、新潟東（普通）、碧（普通）は1倍を下回りました。

ABILITY+ | 「帰納的な考え方」を鍛える。

『縦の長さが x cm、横の長さが y cmの白色で縁取られた灰色の長方形の紙を、1辺の長さが1cmの正方形の紙に切り分けた場合の各正方形の模様について考える。』

これは、令和2年度の新潟県高校入試で出題された問題文の一部です。いわゆる「規則性」を探る問題で、このような学習は教科書において明確に単元として位置づけられてはいません。ですので、このような問題が出題されると受験生は面食らってしまう訳です。

「規則性」問題の解決に求められる力が「帰納的な考え方」。簡単に言えば、実験や観察を通して、そこにはどのようなルールがあるかを推理する力です。

例えば、先ほどの問題であれば、実際に x や y にくつつかの具体的な数値を当てはめて、どんなルールがあるか探してみる。これって、とても大切な数学的な考え方なんですけど、日頃からの鍛錬なくして身に付くものではないのです。

INFO | 「理科」授業、始めます！

当塾は、「さんすうと数学の学習塾SOU」の塾名にも冠するとおり「算数・数学」を専門とする学習塾なのですが、実は「理科」という教科も論理的な思考が求められ、苦手なお子さんが多い教科でもあります。

そこで、当塾においても令和8年4月から通常授業として「理科」をスタートすることにしました。とは言え、理科は算数・数学とは違って、観察や実験などを通して事象を感得しながら学習することが求められる教科ですから、当塾では「映像教材」に詳しい説明を交えながら、科学の不思議を紐解いていきます。



QUESTION | こういう問題が一番むずかしい。

『畑があります。おじいさんは、ひとりですその畑を耕すのに20分かかります。おばあさんは、その畑をひとりです耕すのに30分かかります。おじいさんとおばあさんが一緒にこの畑を耕すと、何分で耕せるでしょうか。』

中学入試のほか、企業の入社試験でもよく出題される「仕事算」です。この問題、畑の「面積」が分かっていないので難しい。ならば、勝手に「面積」を決めてしまえばいいんですよ！色々な解法があるこの問題、小学生も中学生も挑戦できますので、頑張ってみてください！

【2スタンプ贈呈】

